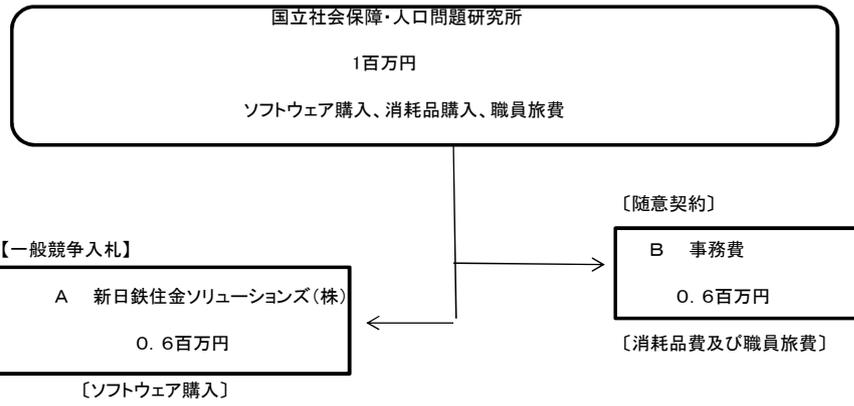


平成27年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	研究調査経費(社会保障・人口問題基本調査の事後事例調査)			担当部局庁	国立社会保障・人口問題研究所			作成責任者
事業開始年度	平成8年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課			越路 幹男
会計区分	一般会計			政策・施策名	XI-1-1 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	社会保障・人口問題基本調査(事業番号884 5つの事業を5年ごとにローテーションにより実施)の結果について、その正確性・信頼性を評価し、それらに影響を与える要因を明らかにし、その後における意義・行動の変化とその要因を明らかにすることにより、分析の精緻化と次回調査の企画設計に役立てるとともに、各種行政施策の立案・策定のための基礎資料を提供することを目的とする。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	前々年度に実施した社会保障・人口問題基本調査の調査地区の調査協力機関、調査員及び調査対象者に対して、研究所研究員が現地に出向き、聞き取り調査を実施し、その結果を踏まえた分析を実施する。							
実施方法	直接実施							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
		計	2	2	2	2	2	
	執行額	3	2	1	-	-		
	執行率(%)	150%	100%	50%	-	-		
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度	
	外部委員により構成される当研究所の平成27年度の研究評価委員会において、総合評価点3.5点以上を得ること。	研究評価委員会の総合評価点をもって成果指標とする。(5=特に優れている、4=優れている、3=良好、2=やや劣っている、1=劣っている)	成果実績	点	4.6	3.9	4.3	-
		目標値	点	3.5	3.5	3.5	3.5	
		達成度	%	131%	111%	123%	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標	単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	調査結果の公表	活動実績	件	1	1	1	-	
		当初見込み	件	1	1	1	1	
単位当たりコスト	算出根拠	単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	執行額/公表回数	単位当たりコスト	百万円	3	2	1	2	
		計算式	X/Y	3百万円/1回	2百万円/1回	1百万円/1回	2百万円/1回	
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	0	0					
	試験研究費	2	2					
計	2	2						

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	国が実施する各種政策の基礎となるデータの結果に関する評価、並びに今後実施する一連の調査・分析の改善を図るものであり、社会的意義があるものである。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	調査データは国の各種政策の基礎となるものであり、調査から分析・評価・改善まで一連の流れとして実施する必要があることから、自治体や民間等に委ねられる事業ではない。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	基本調査の後続事業ある本事業は、研究所の根幹事業の一つであり、優先度は高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	一般競争入札の実施や、契約金額が少額であっても見積合わせの実施により競争性を確保している。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	一般競争入札の実施や、契約金額が少額であっても見積合わせの実施により競争性を確保しており、単位当たりのコスト水準は妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	真に必要なものに限定されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	入札差金及び見積合わせにより経費を削減することができたため。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	調査を企画設計した研究者が自ら調査結果を分析することが、最も効果的であり、かつ信頼性も高いと言える。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動実績は見込みに見合ったものである。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	調査結果は各種政策の基礎資料として活用されている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	国立社会保障・人口問題研究所	884	研究調査経費(社会保障・人口問題基本調査)		
国立社会保障・人口問題研究所	885	研究調査経費(社会保障・人口問題基本調査による分析モデル開発)			
点検・改善結果	点検結果	本事業は、前々年度に実施した基本調査により得られた調査結果の事後調査を実施することは、当該基本調査の精度を一層高めるためにも必要である。平成26年度の執行率は53%であったがこれは一般競争入札の実施や少額であっても見積合わせを行った結果であり、適正であったと言える。			
	改善の方向性	効率化を進展させるべく、入札や見積合わせを導入してきたが、今後も同様の方法でこれまで以上に事業の効率化を図り、効果的な執行を実施することとする。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
一部改善の内容	調査結果の事後事例調査という事業の必要性は認められるものの、最近の執行率を踏まえ、予算額を縮減すること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
縮減	執行額を踏まえ積算の見直しを行った。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	611	平成23年度	559	平成24年度	492
平成25年度	876	平成26年度	876		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位：百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.			E.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
	B.			F.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
D.			H.			
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)	
計		0	計		0	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	新日鉄住金ソリューションズ(株)	ソフトウェア購入	0.6	1	94.2%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立ソリューションズ東日本	ソフトウェア購入	0.4	随意契約	-
2	個人A	事後調査職員旅費	0	-	-
3	個人I	事後調査職員旅費	0	-	-
4	個人N	事後調査職員旅費	0	-	-
5	個人S	事後調査職員旅費	0	-	-
6	個人K	事後調査職員旅費	0	-	-